

平成29年度(2017年度)

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業 実施記録

①著作権・座談会

「障害者アートと著作権～『コモンズ』から考えるアートの可能性」

座談会～水野祐さんを囲んで～

障害のある人のアート活動に取り組むうえで、著作権を考えることは豊かで幸福に生きる権利と深くつながっています。私たちは、これまで「障害者アートと著作権について考えるセミナー」で、法律の専門家とともに、著作権や所有権などの基本を学び、事例をとおして考えてきました。そのなかで、法律は私たちの権利を守るだけでなく、発展させていくためにあること、また法律は堅苦しく、専門家でないとわからないものではなく、お互いの合意やコミュニケーション、解釈によって変えていくことができるものであることを学んできました。

今回は、『法のデザインー創造性とイノベーションは法によって加速する』(フィルムアート社)の著者の水野祐さんを囲んで、これまで障害者アートと著作権について学んできたスタッフから質問をさせていただきながら、「オープンソース」や「コモンズ」といった概念を通して、表現をより発展させ、社会に広げていく視点について考えます。クリエイティブ・コモンズの“共有”の考えには、一定のルールを守ると、表現を使う・改変することで創造性を発展・促進させる、または使用・改変を禁止することで創作性を保護することが提案されています。

クリエイティブ・コモンズについては、こちらをご覧ください。

<https://creativecommons.jp/licenses/#licenses>

自由に使えること、使えないというルールを表現、シェアするとはどういうことか、ぜひこの機会にみなさんと一緒に考えたいと思います。

日時:2017年11月20日(月) 18:00~19:30

会場:Good Job!センター香芝

講師:水野祐さん

弁護士(シティライツ法律事務所)。Arts and Law代表理事。クリエイティブ・コモンズ・ジャパン理事。慶應義塾大学SFC研究所上席所員(リーガルデザイン・ラボ)。京都精華大学非常勤講師。FabLabJapan Networkにも所属。IT・クリエイティブ・まちづくり分野の法務にも従事しつつ、官公庁で委員会の委員やアドバイザーなども務める。

参加費:1,000円(お茶つき)

対象:社会福祉施設職員・学生・アーティスト・そのほか関心のある人

定員:各回20人

②パフォーミングアーツを体感しながら学ぶ2日間

障害とアートの相談室では、パフォーミングアーツの分野でジャンルを横断するような形で障害のある人と活動している方を招き、レクチャー・ワークショップを開催します。近年ではビジュアルアートだけではなく、演劇、音楽、ダンスなどのパフォーミングアーツなど、多様なジャンルで発信する機会が増えてきました。それにともない、それらの表現をどう見るか、どう見せていくのかという関心も高まってきています。また、形にのこらない作品、そもそも既存のジャンルを超えるような表現について考え共有していく場も必要です。

パフォーミングアーツについて知ることで、人間の表現の幅を感じ、身近な人の可能性を見出すことができます。2日間にわたって、多様な表現を知り、体感し、考え、議論し、そこからそれぞれの活動に応用できるようなヒントを見つけていきます。実際に自分の身体を動かして、パフォーミングアーツの現在を一緒に体感したいと思います。

日時:2018年1月20日(土)・21日(日)

会場:たんぽぽの家アートセンターHANA(アクセス)

定員:30名

対象:福祉施設職員、パフォーミングアート活動に関心のある人、障害のある人の表現に関心のある人、アーティスト、デザイナーなど

参加費:2日間3,000円(学生1,500円) 1日のみ2,000円(学生1,000円)

[プログラム]

2018年1月20日(土)13:30~18:00 *交流会 18:30~20:30

1. トークセッションーいろいろな取り組みを知る

実践者から、活動をするうえで目指してきたことや気をつけてきたこと、これからの展望などを聞きます。障害のある人だけではなく、異分野や異なるコミュニティと関わるからこそ見えてくる舞台表現の役割や魅力を探ります。コーディネート:大井卓也、中島香織(一般財団法人たんぽぽの家)

・話し手① 沼田里衣(大阪市立大学テニユアトラック准教授、おとあそび工房)

「いろいろな価値観を楽しむ即興音楽」

即興演奏を得意とするミュージシャン、音楽療法家、知的に障害のある人の出会いによって2005年に生まれたパフォーマンス集団、音遊びの会。設立から12年にわたり代表をつとめた沼田さんは現在、さらなる実験的な取り組みを展開しています。音楽にかぎらず、美術家やお笑い芸人など、他ジャンルの表現活動とのコラボレーションも積極的に行い、出会いから生まれた新しい音楽のかたちを共有します。

・話し手② いしいみちこ

(ドラマティーチャー、大阪府追手門学院高等学校表現コミュニケーションコース教諭)

「生きやすくなるための演劇教育」

教育の現場でドラマティーチャーを務めるいしいさんは、演劇界で活躍する演出家らと協働して、作品を送りだしています。福島県いわき市の高校で、飴屋法水さんとともに作り上げた舞台『ブルーシート』は岸田國土戯曲賞を受賞、大きな反響を呼びました。

・話し手③ 森田かずよ(女優、ダンサー)

「身体を再発見するダンス」

コンテンポラリーダンスやフラダンス、演劇と、さまざまなジャンルに挑戦する森田さん。舞台の途中で義足をはずしておどる、代表作「アルクアシタ」など、つねに自身の身体の可能性を探求しながら表現を続けています。現在は、子どもたちにむけたワークショップも行い、だれもが異なる身体を持つことを伝えています。

2. 国内外におけるパフォーマンスの映像上映&美味しいごはんを囲んでの交流会

・コーディネーター: 中川眞(大阪市立大学都市研究プラザ特任教授)

さまざまなパフォーマンスの映像記録をとおして、多様な取り組みを共有します。ひとりでじっくり鑑賞するのもいいですが、ここでは、集まった人とともに語り合いながら、一緒に楽しみたいと思います。

2018年1月21日(日)10:00~15:30

3. ワークショップーじっさいに動いてみる

2日目は、「うごく」「えんじる」「きく」の3つの部屋にわかれて、ワークショップ形式で体験します。午後からは体験したことをことばにして、振り返っていきます。いつもとは少しちがう感覚で1日を過ごし、参加者それぞれのこれからの活動のヒントを探ります。

講師:

①「うごく」佐久間 新(ジャワ舞踊家)

生活の動きから生まれる表現の素を共有し、即興的な動きから生まれる豊かな関係を体験することで、私たちがもっていた「ダンス」の概念をひろげます。

②「えんじる」佐藤拓道(たんぼぼの家スタッフ/俳優)

障害のある人とつくる演劇の可能性とは？たんぼぼの家のスタッフでありながら各地で俳優として舞台に立つ佐藤さんから、福祉施設における演劇の役割について、具体的に学びます。

③「きく」沼田里衣(大阪市立大学テニユアトラック准教授、おとあそび工房元代表)

他人の音に耳をすますところから、コラボレーションははじまります。数々の公演やワークショップから得た経験やノウハウを共有します。

4. 振り返り

各部屋の参加者から何人か、午前中のワークショップで、「わたしの体験したこと」を話してもらいます。そのあと他の参加者や各部屋の講師とともに、感じたことや思ったこと、疑問に感じたことなどを共有します。

※特別企画「福祉施設をあそぶ」

福祉施設そのものを使って、多様な表現を実感する試みです。身近なものを使って、景色や人のふるまいをさりげなく、大胆に変えてきた美術家の梅田哲也さんの、現実を豊かに楽しむ視点を共有します。参加アーティスト:梅田哲也(美術家)

③障害のある人の知的財産権について考えるセミナー

障害のある人の表現行為や創作活動を支援していると、作品や複製の販売、画像や音声、動画のインターネットでの拡散など知的財産権にかかわる問題に直面することがあります。知的財産権は、直接福祉とは関係のない話だと思われがちです。しかし、この問題について考えることは、障害のある人が豊かに生きる権利を守ろうとすることに他なりません。そこで本セミナーは、知的財産権とは何かといった基本的な考え方をわかりやすく解説し、その運用法を学びます。法律の専門家とともに、具体的な事例にどのように対応することができるのか、みんなで考えたいと思います。

日時:2018年3月3日(土)14:00-17:30[第1部 14:00~15:30・第2部 16:00~17:30]

会場:たんぽぽの家アートセンターHANA2F ミーティングルーム(アクセス)

対象:奈良県、近隣圏の社会福祉施設職員、学生、アーティスト、そのほか関心のある人

会費:無料

定員:20人

[プログラム]

第一部「知的財産権とは」

・障害のある人の表現行為・創作活動を取り巻く状況について

岡部太郎(一般財団法人たんぽぽの家常務理事)

・知的財産権について

高島雄一郎(弁護士、登大路総合法律事務所)

・いくつかの事例をガイドラインおよびチェックリストと用いて解説

藤井克英(Good Job!センター香芝 ワークプログラム・コーディネーター)

第二部「障害のある人の作品の販売と知的財産権」

* パネラー

・高島雄一郎(弁護士、登大路総合法律事務所)

・山下完和(社会福祉法人やまなみ会 やまなみ工房施設長)

・福江敬太郎(株式会社段々色代表)

・藤井克英(Good Job!センター香芝 ワークプログラム・コーディネーター)

* 進行 岡部太郎

質疑応答